

植 栽 事 例 (4)

ゴバイミドリ

フトンカゴを応用した「5×緑」で
立体造形の植栽が実現

田瀬理夫(プランタゴ)



写真1 COURT HOUSE KUNITACHIの
中庭へのアプローチ

10年ほど前に集合住宅の中庭のデザインをする機会があった。1階と2階の一部はギャラリー、上階は賃貸住宅という3階建てのコートハウスで、地階は駐車場になっており、中庭やそのアプローチ部もすべてスラブ上有る。そこに「緑あふれるコートを」というのがリクエストであった。人工地盤にありがちなコンクリートで固めた、乾いて冷たい「広場」にはしたくはない。建物のなかはギャラリーでさまざまなおアートが展示されるので、コートは植物による生々しい庭ではなく、緑による空間としてデザインしたかった。

提案のあげくフントンカゴに人工土壌をつめて、上面も傾斜面もツル

ACHI（1994年竣工）が誕生した（写真1）。

鉄線できた「フントンカゴ（GABION）」はもともと土木工事に、特に河川の護岸や治山工事に雑石を詰めて使う資材であったが、内貼材を工夫することで土を入れることが可能になる。すると柔軟造の緑化ブロックとなり、緑は植栽地という平面から3次元の立体へとデザインする対象が大きく広がる。さらに保水性の高い人工作重量土壌を詰めることで軽量緑化ブロックとなって建築デザインとの融合が可能である。特に防水層との取合いなど、屋上という何とかと制約の多い環境に有効なことが数多くの事例により実証してきた。

また、植物の種類が極端に少なくて、随伴する生物も異常に偏っている現在の都市環境に対して、植栽する植物を多彩にすることでの都市のエコロジー・緑のエコロジカルな連結を復活させせる可能性性を視界に入ってきた。ここでは、フトンカゴによる緑の立体造形工法の発展型の1つである「 $5 \times 緑$ 〔ゴバイミドリ〕」について紹介したい。

にこの工法は、次のような特徴をもつている。

- ①前面も植物で覆うので、植生の器そのものの緑化できる
- ②ベースやデザインに合わせてさまざまな形や大きさのものが製作可能(写真3)
- ③軽量なので、屋上やベランダなどにも設置可能(写真4)
- ④コンクリートの地面にも置くだけで簡単に「庭」ができる
- ⑤積み重ねたり壁面を利用することで容易なので、立体的な緑化ができる
- ⑥フントカゴそのもので堀や植栽

奥行きの狭いブントンガコをフレームにはめ込んだり、金網を壁面などに設置し植物を這わせれば、「植生ルーバー」や「植生ウォール」がつくれる(図2)。さらに、強化金網によつてし字型の土留を作すれば、草屋根をつくることも容易である(写真2)。そのほか

5×緑は、多くの個人が緑を身近に楽しむことにより、都市に本来の植生が蓄積し、社会の豊かさにつながっていくことを可能にするシステムである。

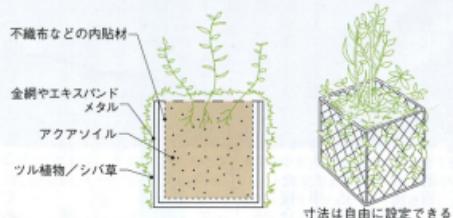
も、気候に対応できれば構込み可能な
可能であるが、都市の環境回復と
私たちにとっての心の癒しといふ
ことをテーマとするとき、自ずと
植栽に対する基本スタンスは定まつ
つてくる。それは、高度成長期當
には私たちの身近にあって、環境
に対しても実は大きな役割を担つて

かった4つの側面にもツル植物やシバなどの緑を植え込むことができるようになり、上部のみの1面の緑化だけでなく、4側面も緑化できるものとなつた。同じ設置面積でも5倍の緑化が可能になる。それが「 \times 緑」というブランド名の由来である。

植生をそのまま移動することが可能で、容易写真5・6

には3日に1回程度、冬は1週間に1回程度。水道りはたつぶりりと時間をかけるようにする。大きいものほど頻度は小さくなる。

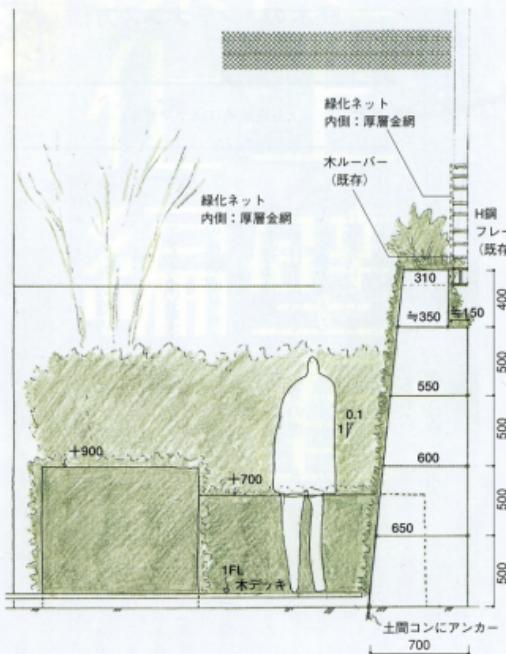
図1 5×縦の構成



注1 鋼線は表めっき線、重鉛めっき線、薄船アルミ合金ぬき線などいろいろある

*2 ネットワーク・マーケティング、会員登録の上、正規の「白金会員」となっていただけます。
※2 アニックス5×縁事業部門 合併先TEL:03-3280-2041、FAX:03-3280-2045 「5×縁は、志を共有できるプロジェクトを求めていました。私たちの考え方やシステムと共に感していただけるなら、建築家とのコラボレーションによって環境デザインから施工、メンテナンスまで一貫して行います。また、置き式のユニットを使って、より簡単に縁のスペースをつくることができます」

図2 バンゲアソラリウム中庭断面図



いた里山やあぜ道の植生である。その植生の大きな特徴は、長い時間をかけて日本の気候風土に適した在来種であること、単位面積当たりの種類の多様さである。单純な植生は、その種を好む虫や細菌の大量発生を招く危険性をはらむ。その予防、防除のために、化學薬剤を散布する場合がほとんどで、それでは、せっかく緑を増やしても環境的にはかえって悪影響を及ぼすことになりかねない。

5×緑のシステムは、都市的な生活を否定することなく、人間と自然が共存していた日本本来のよきを回復しようとするものである。

5×緑の基本は、フントンカゴの4側面にティカカカラなどのツル植物やシバなどを植え、上部の「地」の部分にはアゼターフ（あぜ道）の植生をモデルに生産している在来の草本・木本類植生)、「図」の部分には在来種を中心にさらには園芸植物も加えて植えるというものである。アゼターフや里山の植物の生産は、首都圏近郊でいわゆる里山と呼ばれる在来の植生がもつとも多様に残っている稀少な地域である福島県の石川地区で、在来種を中心とする園芸植物の生産は、茨城県のつくば市で行っている。今、減反や過疎化などにより、

從来人の手が入ることによって守られてきた里山やあぜは放置され、都市ばかりでなく全国的に環境の悪化が進んでいる。都市に里山の自然を回復することは、その生産地の経済を活性化し、里山生態を守り育てることにつながる。

北海道から沖縄まで日本の植生は気候条件などでおむね10に区分されるが、各種生区分で在来種が生産され、その地域で植栽され、地域のエコロジーと景観を回復していくことが求められている。

5×緑のシステムは、都市と里山の双方面の環境を回復することを目指したものなのである。



写真4 ガレージの上の草屋根。家に向けて勾配をつけている。草屋根からはてのガゼンニットを発想、ガーデンに軽感が広がる。



写真3 わずかな敷地を利用して町並をつくる2つの庭



写真2 5×緑による草土手と草屋根がつくる景色



写真5 玄関脇の草土手や階段に立派な網をつるして庇護する
写真6 テッキの切込みに置かれた5×縦。テッキ同士でペルトをすることで床が嵩上げされる



写真5 玄関周りの草土手や階段に立体的な網をつくることができる